

平成25年10月7日
J R 北 海 道

A T S等が作動した際に自動で非常ブレーキがかからない状態となっていた事象について

本日(平成25年10月7日(月))16時30分頃、苗穂運転所において、苗穂工場出場後における初回の交番検査を実施した際、A T S(自動列車停止装置)やE B装置(緊急列車停止装置)及びT E装置(緊急列車防護装置)が作動した際に自動で非常ブレーキがかからない状態となっていたことが判明しました。

1. 概況

平成25年10月7日(月)16時30分頃、苗穂運転所において、苗穂工場出場後における初回の交番検査を実施していたキハ183-211号において、「電磁給排弁非常吐出締切コック」が「開」となっているべきところ、「閉」となっていたことが判明しました。

このコックが「閉」となっていることで、A T S(自動列車停止装置)やE B装置(緊急列車停止装置)及びT E装置(緊急列車防護装置)が作動した際に自動で非常ブレーキがかからない状態になっていました。

なぜ当該コックが「閉」となっていたかについては、現在調査中です。

2. 緊急点検

各工場を出場後、初回の交番検査を実施していない、当該車両と同じ構造を持つ車両について緊急点検を行っております。

※その後、緊急点検については10月8日1時45分までに終了し、異常のないことを確認しました。